

IX

完了図作成要領

Ⅸ 完了図作成要領

目次

| | |
|--------------------------|----|
| 1. 一般事項..... | 3 |
| 2. 図面の規格..... | 3 |
| 3. 区画線等の記入..... | 3 |
| 4. 高低測量..... | 3 |
| 5. 下水道工作物..... | 3 |
| 6. タイトル..... | 4 |
| 7. 見出し..... | 4 |
| 8. 完了図凡例..... | 5 |
| 9. 完了図路線番号..... | 6 |
| 10. 完了図の作成について..... | 7 |
| 11. 電子媒体の作成について..... | 8 |
| 12. 完了図作成例..... | 9 |
| 13. 工事完了から引継ぎまでのフロー..... | 10 |

1. 一般事項

- (1) 完了図作成にあたっては測量調査を正確に行い、信頼すべき図面とすること。
- (2) 図面作成にあたっては、凡例の記号にしたがい間違いのないように記入すること。
- (3) 完了図の提出時期は原則として、しゅん功届と同時に提出すること。
- (4) 完了図の活字の大きさは**12**。完了図作成例を参照すること。フォントは原則、MSゴシックを使用すること。
- (5) 方位を入れること。

2. 図面の規格

- (1) 枠の寸法
12。完了図作成例を参照すること。
- (2) 縮尺
1000分の1とする。

3. 区画線等の記入

- (1) 道路境界線は建築線台帳（市土木部土木管理課備付）に基づき記入し、線の太さは細線の実線とする。
- (2) 歩車道の区別ある場合、歩車道境界線は(1)に同じ。
- (3) 道路構作物等（側溝緑地など）を細実線で記入する。
- (4) 道路幅員、歩車道幅員等の寸法を明確に記入すること。

4. 高低測量

この図面における水準基標は、監督員の指示したものによる。水準測量は必ず閉合し、その閉合誤差は1kmにつき10mm以内とする。

5. 下水道工作物

下水道工作物としては、管渠、マンホール、ランプホール、吐口、汚水柵、雨水柵、取付管、取出管、伏越しポンプ場、処理場等を台帳凡例に基づき明確に記入する。

- (1) 管渠
 - (イ) 幹線は中線による2本書きとする。枝線は太線の実線で表す。
 - (ロ) 管渠の形状別表示は次の記号による。

| 記号 | 種別 | 表示方法 | 表示例 |
|---|-----|--|--|
|  | 円形管 |  (内径) |  600mm |
|  | 卵形管 |  (呼び径) |  250mm |
|  | 函渠 |  (W×H) |  2000×1500mm |
|  | 開渠 |  (W×H) |  4000×1700mm |
|  | 〃 |  ($\frac{W1}{W2} \times H$) |  5000 × 1900mm 3000 |

- (ハ) 延長はマンホール中心間をもって表し、管底高はマンホール内壁部における各層の管底の高さをもって表す。
 - (ニ) 管底の形状、勾配、延長を表す文字は、マンホール間に記入し、管底高を表す文字は、その所属管と並行して管底変化ごとに記入する。
記入できない場合は、適当に位置を変更し引出し線をもって所属管を明確にする。
 - (ホ) 管渠線の流向を示す矢印は、その所属管渠に近接した位置に並行して記入する。
- (2) マンホール
 - (イ) マンホールは、既製品を組み合わせて設置する標準マンホールと下部躯体を現場打ちする特殊マンホールがある。その他吐き口、伏越室等があり、これを区分した凡例記号によ

り記入のこと。

- (ロ) マンホール位置は道路境界を基準とし，両側及び両街角よりマンホールふたの中心までの距離をもって表示する。
- (ハ) マンホール位置の地盤高は標高で表し，マンホール縁石の高さをもって表示する。縁石傾斜の場合，その上下の平均をとる。
- (ニ) マンホール箇所^の地盤高記入にあたっては，マンホールの中心に向かう矢印線を引き，文字は，縦書きにする。

(3) 柵

- (イ) 柵の記号は雨水ますと汚水ますに区別し，その形状を凡例により記入する。
- (ロ) 柵の位置は起点マンホールを基準とし，下流に向い距離を測り，その^{ていか}追加距離を表す。
追加距離はマンホール間ごとに更新する。
- (ハ) 追加距離はます所属の取付管に並行して記入する。
- (ニ) 柵の位置は前号(ロ)以外に最寄の家屋又は構造物からオフセットをとる。
- (ホ) 柵の最大番号については，下線を引くこと。

(4) 取付管

- (イ) 雨水，汚水とも取付管の大きさ及び延長を表示する。
文字は前号(ハ)の文字と並べて記入する。

(5) 吐口

吐口は，その放流する河川のHWL，MWL，LMLを吐口に近接した位置に明確に記入する。

(6) 伏越し

伏越し箇所の管渠形状，延長，勾配を表示する文字は伏越しマンホール間に記入する。

6. タイトル

1 2. 完了図作成例を参照すること。

7. 見出し

1 2. 完了図作成例を参照すること。

8. 完了図凡例

| 線幅 (mm) | 記号 | 種別 | 標準・特殊マンホール | | 特殊マンホール 呼び方 |
|-------------|--|------------------|--------------------|-----------|---------------------|
| 細 (0.18) |  | 建築境界及び 歩車道区分線 | (標準マンホール) (既製品) | | (特殊マンホール) (現場打ち) |
| 中 (0.35) |  | 幹線管きよ | | | |
| 太 (0.50) |  | 枝線管きよ | | | |
| 中 (0.35) |  直径1.5mm | 第0号マンホール | 円形 | 内径 70cm | 特1号マンホール (函渠管理用) |
| |  直径1.5mm | 第1号マンホール | " | " 90cm | 特1号マンホール |
| |  直径1.5mm | 第2号マンホール | 角形 | 内寸法 120cm | 特2号マンホール |
| |  直径1.5mm 内径1mm | 第3号マンホール | " | " 150cm | 特3号マンホール |
| |  直径2mm | 第4号マンホール | " | " 180cm | 特4号マンホール |
| |  2mm角 | 第5号マンホール | " | " 210cm | 特5号マンホール |
| |  2mm角 | 特殊マンホール | " | " 設計図参照 | 特殊マンホール |
| 太 (0.50) |  | 副管付マンホール (外部) | | | |
| 中 (0.35) |  直径1.5mm | 簡易ホール | | | |
| 細 (0.18) |  直径1mm | 汚水枥 | | | |
| |  | 取付管 | | | |
| |  1mm角 | 雨水枥 | | | |
| |  直径1.5mm | マンホール断熱蓋 | | | |
| | | | | | |

備考 下記の施設については、平面図，横断図を別途完了図に表示するものとする。

中間スラブ設置マンホール，特殊マンホール，内部副管付マンホール
外部副管（立上のみ），マンホール，吐き口，伏せ越し

9. 完了図路線番号

完了図の路線番号については、次の通りとする。

- (1) 完了図の路線番号は現況計画等で順をおって付けて行き、計画路線外に布設された場合は、そのつど番号を新たに付ける。
- (2) 原則として完了図は一路線ごとに作成する。(図1参照)
- (3) 路線が2つ以上のブロックが別々な場合は、ブロックごとに完了図を作成する。(図2参照)
- (4) 路線が2つ以上のブロックにまたがっている場合や、ブロック界に沿っている場合、その他不明な点は下水道担当者と協議して行うこと。(図3参照)
- (5) 一路線において工事が分割されて施工される場合は路線番号に工事番号を付けて作成する。(図4参照)
- (6) 路線番号の活字はMSゴシック体(5mm角)でタイトルの上部に付ける。
(12. 完了図作成例を参照)

図1

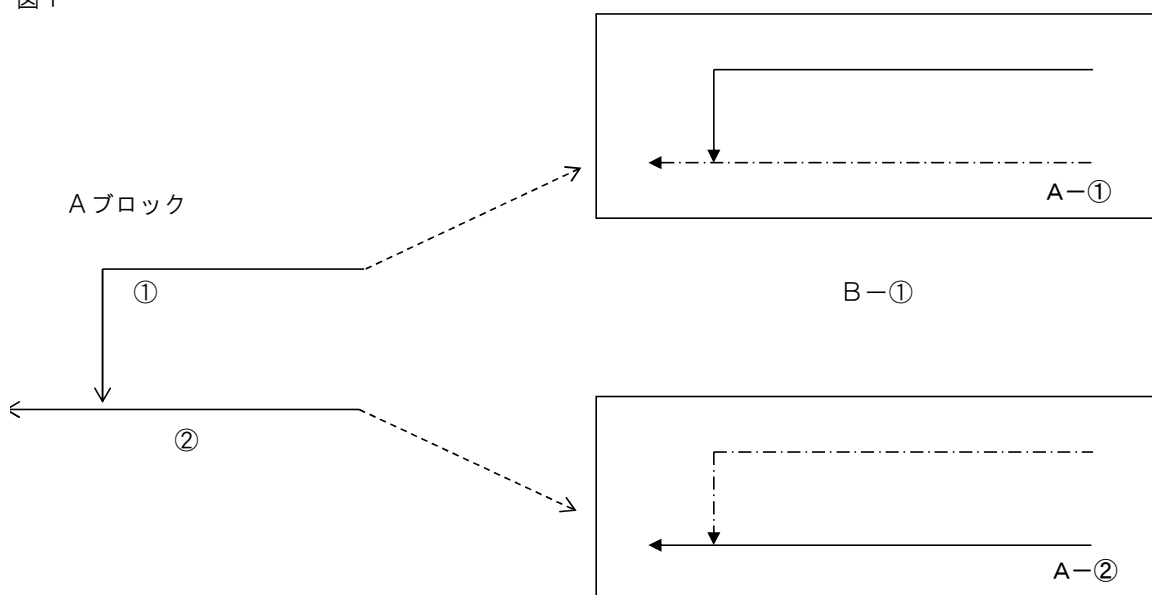


図2

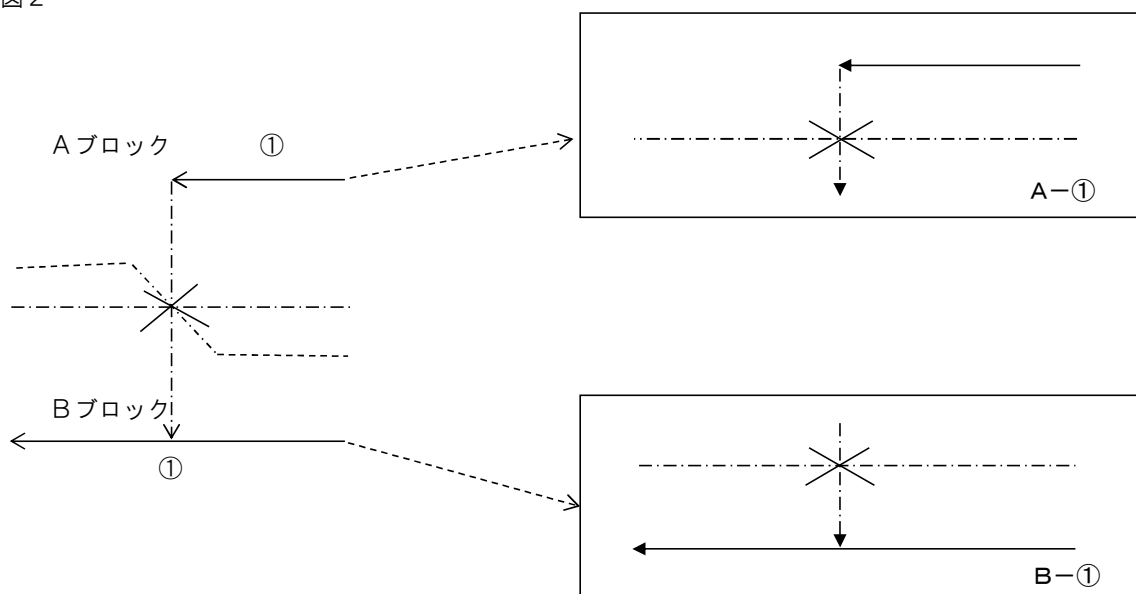
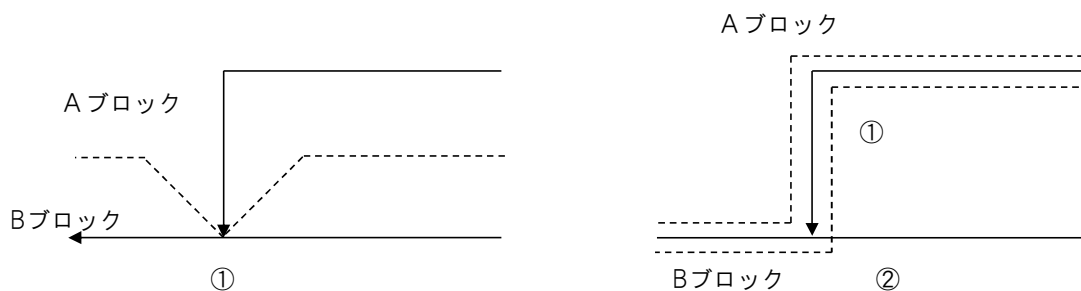
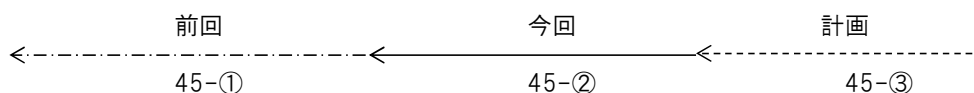


図3



ブロック界を変更したり路線番号を変更するなどを協議

図4



10. 完了図の作成について

下水道工事または下水道に接続する工事を施工した場合は、完了図を作成するものとする。基本的な作成方法は次のとおりとし、工事ごとに下水道担当者と協議したうえで作成すること。

(1) 基本的な作成方法について

① 完了図をCADにより新規作成する場合について（下水道新設工事等が対象）

(ア) 作図方法は全てCADにより作図する。

(イ) 縮尺は1000分の1とする。

(ウ) 用紙サイズ原寸はB4(364×257mm)とする。

(エ) 提出方法は次のとおりとする。

・完了図1部 ～ 用紙種類：コート紙または上質紙（厚口）

・電子媒体（光ディスク）1枚 ※「11. 電子媒体の作成」を参照

② 既存完了図に加筆，修正しCADデータ化する場合について（下水道更新工事・公共樹設置工事等が対象）

(ア) 水道局で保有している既存完了図の電子データをCADの基図として使用し，対象部分をCADにより編集する。改めて既存完了図（マイラー紙）をスキャニングする必要がある場合は，原図と比較して線や文字が著しく劣化しないよう注意すること。

(イ) 縮尺は1000分の1とする。

(ウ) 用紙サイズ原寸はB4(364×257mm)とする。

(エ) 提出方法は次のとおりとする。

・完了図1部 ～ 用紙種類：コート紙または上質紙（厚口）

・電子媒体（光ディスク）1枚 ※「11. 電子媒体の作成」を参照

(2) 既存完了図の貸与について

既存完了図に加筆，修正する場合は，下水道担当者が既存完了図（電子媒体またはマイラー原図）を貸与する。貸与品を損傷，紛失しないよう十分注意して取り扱うこと。

1 1. 電子媒体の作成について

電子媒体の作成方法は次のとおりとする。

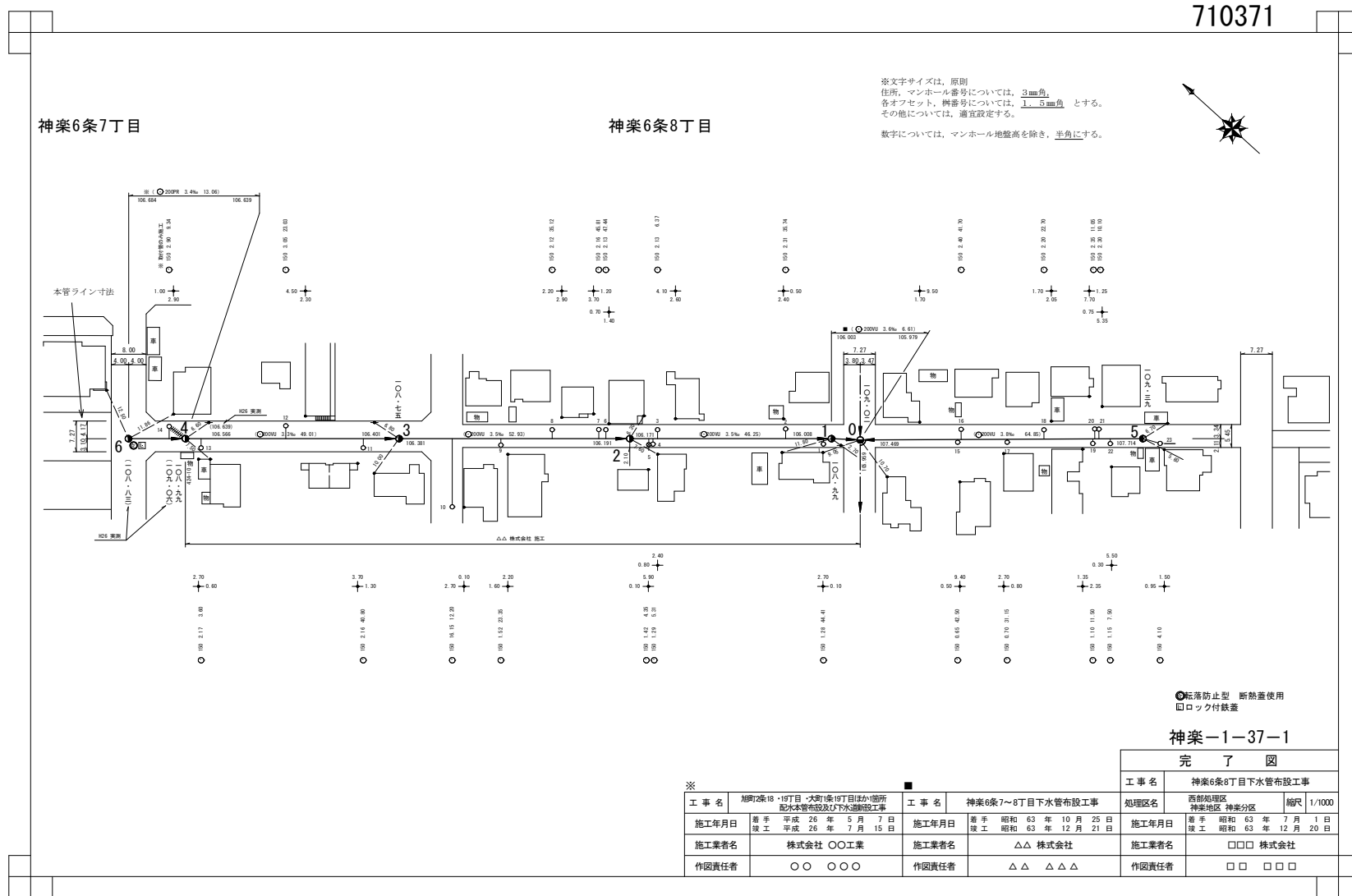
- (1) 電子媒体は光ディスク（CD-RまたはDVD-R）とする。
- (2) 光ディスクは工事一件ごとに作成する。
- (3) 光ディスクに保存するファイル形式は次のとおりとする。
 - ・CADファイル：P21（B4，縮尺1000分の1）
 - ・画像ファイル：TIFF（B4，解像度400dpi以上）
 - ・PDFファイル：（B4，縮尺1,000分の1）

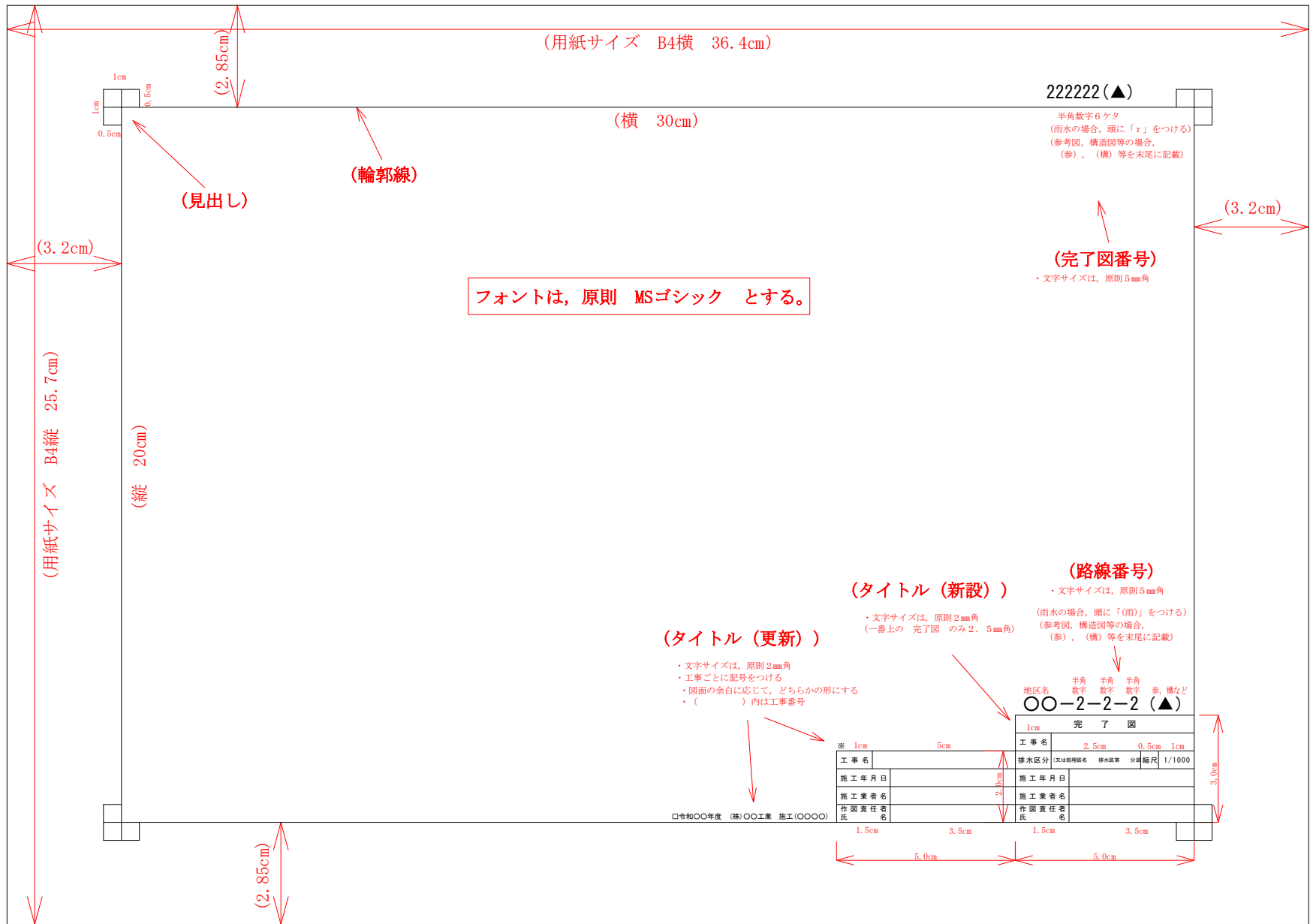
またファイル名は，「完了図番号（6ケタの半角数字）＋拡張子」とする。

（例）222222.p21, 222222.tif, 222222.pdf, 222222(参).p21 など

- (4) 光ディスクは最新のウイルス定義でウイルスチェックを実施して提出すること。
- (5) 光ディスクには，印刷等により，ディスク上面に「年度」「工番」「完了図番号」「請負人」「発注者」「完了図データ作成者」「ウイルス定義」「ウイルスチェック年月日」を記載すること。
- (6) 光ディスクは受注者の負担で用意する。

12. 完了図作成例





1 3. 工事完了から引継ぎまでのフロー

